



見る位置を変えると世界が変わる
 蔵の横の木戸辺りから見ると、手前の植栽の向こうに庭が見え隠れします。歩を進めるに従って、木や石が織りなす景観が徐々に開けてきます。



氷砕敷(ひさいじき)

蔵の前には、諏訪湖の氷がひび割れ広がっていく様子が表わされた敷石があります。氷のきしむ音が聞こえてきそうです。



峠の古道

赤錆色に染まった山石が敷き詰められ、「峠の山道」に見立てられています。錆びた色合いと苔の緑が相まって、森閑とした古道の趣をかもし出しています。



歴史の

宿場街道資料館内
 「諏訪の歴史と自然の庭」



水源の水鉢

岩の間から湧き出る水が集まり、やがて水流になっていく様子が表されています。石樋から落ちる水音と水鉢から滴る水音が響きます。水鉢の周りに並んでいる石は、下諏訪ならではの石、黒曜石です。



縁側から見た庭

宿場街道資料館の一階の縁側に腰を下ろすと、秋宮と千尋社の杜が借景のように見えます。



歴史の道

手前の石置は「町の道」が表されています。かつて大社通りの石置に使われていた花こう岩のこぶし大の石が敷き詰められています。続いて黒っぽい色の「山里の道」。その先は赤錆色の「峠の山道」へと続いています。白から黒へ、そして赤錆色への色の変化が絶妙です。



三つち

縄文から令和まで続く歴史文化と人の営みにふれる旅

信州下諏訪

宿場街道資料館

[住所] 〒393-0015 下諏訪町3530-1 [TEL] 0266-27-8827
 [営業時間] 9:00~17:00 [休み] 月曜日と祝日の翌日

企画・制作 / 下諏訪町
 令和元年度長野県地域発 元気づくり支援金活用事業

下諏訪に残る古き「こみち」は今も続く歴史の道

幾多の歴史文化が佇むここ下諏訪の「こみち」。少し歩けば様々な面影や風情に出会えます。



甲州街道・中山道合流の地

江戸から京へと続く中山道と江戸から甲斐路を抜けて下諏訪に至る甲州街道が合流する下諏訪宿。



綿の湯跡—湯玉伝説—

諏訪大社の妃神、八坂刀売神(やさかとめのかみ)が、化粧用の綿に湯を含ませて置いたところから「綿の湯」になったともいわれています。



くみ湯文化

下諏訪温泉には道中に温泉が常に流れ出ている湯所が点在しており、昔からタンクなどに詰めて誰でも持ちかえることができました。今もお風呂や炊事、洗濯に使われるなど、この地域の暮らしの知恵として利用されています。



① しもすわ今昔館おいでや

下諏訪の歴史文化を伝えるまち歩きの出発点。時計のふるさと諏訪で機械式時計の原点を学べる「時計工房 儀象堂」と縄文時代の黒曜石と人との関わりを学べる「星ヶ塔ミュージアム矢の根や」からなる施設です。

営業時間/9:00~17:00 休み/無休 入館料/大人600円、小・中学生300円(全て税込)
TEL/0266-27-0001 ※休憩コーナーは入館無料。



② 下諏訪本陣

江戸時代、参勤交代の大名や公用の武士らが泊まった本陣。中山道随一の名園といわれた日本庭園が江戸時代の趣きを今に伝えていきます。

営業時間/10:00~16:00 休み/不定休
料金/大人500円、小人300円(全て税込) TEL/0266-28-7055



③ 遊泉ハウス児湯

和泉式部の伝説にまつわる鉄焼地藏尊(来迎寺)のご利益で湧き出したとも言われます。延命の湯、美人になり子宝に恵まれるとされる名湯です。昔より子授けの湯と伝えられ、児宝地藏尊が入り口にあります。

営業時間/5:30~21:30(最終受付)
料金/大人230円(税込)



④ 青塚古墳

諏訪地方では唯一の前方後円墳。古墳の築造は6世紀後半と推定されています。諏訪大社下社秋宮の境内地にあることから、諏訪大社に關係する有力者のものと推定されています。古墳上に立つ大きなケヤキの木も見ごたえがありますよ。



⑤ 来迎寺-かな焼き地藏尊-

平安時代、顔に大けがを負った「かね」という少女が、この寺のお地藏さまのおかげで治り、その後京に上って宮中につとめ時の歌人「和泉式部」をなつた、との伝説が残っています。立身出世にもご利益があると言われるます。



⑥ 旦過の湯

鎌倉時代の修行僧のために建てられた「旦過寮」が始まりとされている、歴史ある公衆浴場です。湯口は52度と高温で、切り傷に効く源泉と伝えられています。

営業時間/5:30~21:30(最終受付)
料金/大人230円(税込)



散策途中で一息 無料休憩所 営業時間/9:00~17:00 休み/月曜日と祝日の翌日



① 宿場街道資料館

江戸時代の町家の雰囲気を残す資料館。下ノ諏訪宿での活発な商業活動や宿場機能が高いレベルにあったことを、様々な資料を通じて伝えています。



⑦ 今井邦子文学館

大正・昭和期に女流歌人として活躍していた今井邦子。島木赤彦に師事し、アララギ派に入会。赤彦没後は短歌誌「明日香」を創刊し、その編集所として使われていました。



⑧ 七曜星社蔵

製糸業が盛んだった明治時代に、製糸工場の一角に立てられた土蔵を整備。製糸に関する写真や図を展示しています。



⑨ 八幡坂高札ひろば お休み処

「高札」とは治安を守るための決まりを公示した場所です。その高札のとなり土蔵を改装した無料休憩所があります。